

時間マジックで 観光地力をアップする！

「滞在時間をずらす」「すき間時間を活かす」で
魅力・滞在時間・旅行者が増える！

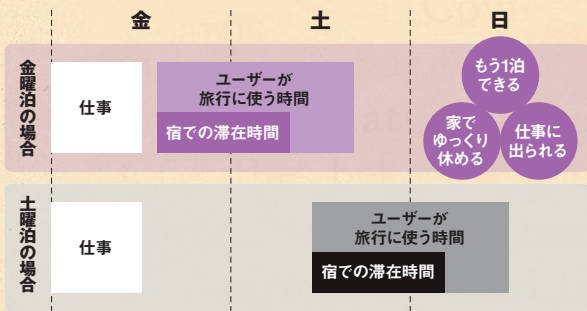
はじめに
宿の販売力を上げ、地域の魅力を上げる
時間の使い方とは？

土曜↓金曜夜発にずらせば
宿泊旅行に行きやすくなる

1泊2日の宿泊旅行では、1日目の午後〜2日目の午前という滞在時間が基本。移動時間も含めると丸2日を費やす形になり、休日のうち1日は家で休みたい人や、そもそも1日しか休みが取れない人が宿泊旅行を見送る理由になっている。しかしこの行程を少しずらして滞在を夜からにしてみると、金曜(平日)、終業後に出発し、土曜日(休日)のうちに帰宅することが可能に(図1)。土日が休みの人なら1日分の余裕が生まれ、1日しか休みが取れない人も1

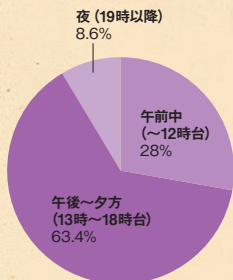
泊できることになり、宿泊旅行へのハードルが一つ取り除かれるのだ。

図1 週末旅行の時間をずらすと旅行しやすくなる



金曜の夜の時間を活用し、土曜泊を金曜泊にずらすと、週休2日の人は日曜日に休養をとることができて旅行のハードルが下がる。休みが1日しかない人も宿泊旅行が可能になる

図2 宿泊エリアに到着した時間(3区分)
n=11871

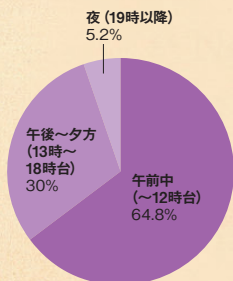


出典：2010じゃらん宿泊旅行調査
(じゃらんリサーチセンター)

夕方、夜、朝の時間の活用で
宿泊率も地域ブランドも向上

もう一つ注目したいのが滞在中の時間の使い方だ。たとえば到着〜夕食の間など、やることのない「すき間時間」に魅力的な過ごし方を提案できれば、エリア内での消費促進や、滞在時間の延長にもつながるはず。

図3 宿泊エリアから出た時間(3区分)
n=11871



出典：2010じゃらん宿泊旅行調査
(じゃらんリサーチセンター)

夜や早朝に魅力的な時間を設けられれば、日帰りを宿泊に変えるきっかけにもなる。地域ブランド向上に伴うリピーター獲得も狙えそうだ。本特集では以上のような観点から、金曜(平日)泊促進のために行った観光庁の商品造成事業(P21)と、「すき間時間」の活用事例(P27)について紹介していきたい。

「時間が無い、休みが取れない」は宿泊旅行減少の大きな原因の一つ。それなら、観光地側のほうで時間の使い方を考え直してみてもどうだろうか？ 滞在時間やすき間時間など、時間の工夫で宿泊旅行を増やす方法を考えてみた

事業報告

観光庁「既存の枠組みに囚われない視点での平日・閑散期の旅行需要促進商品造成事業（平成22年度）」

旅行者の金曜（平日）泊を促進する 宿泊プラン商品の開発

週末や長期休暇に集中する旅行需要の分散は、観光業界全体の一大課題。本事業では、チェックイン時間をずらすことによる金曜（平日）泊の可能性を探ってみた

背景・ターゲット

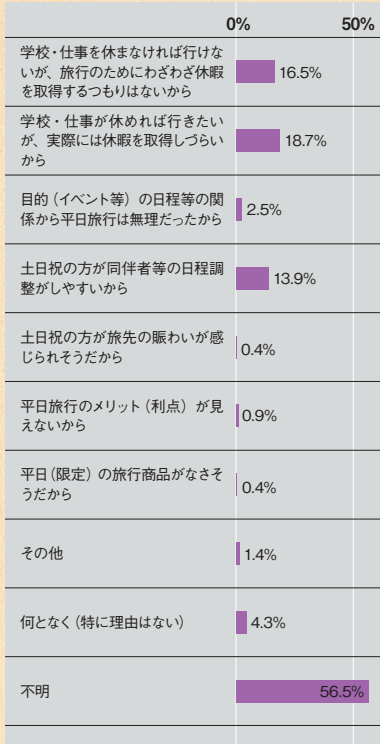
平日旅行への意識調査の結果 2つのポイントが見えてきた

本事業は、じゃらんリサーチセンターが観光庁の受託事業として行ったもの。目的は、繁忙期に集中しがちな旅行需要を平準化し、平日・閑散期の旅行を促進する方法を探ることにある。

平日泊のメリットは伝わっている カギは休暇を取らずに行けること

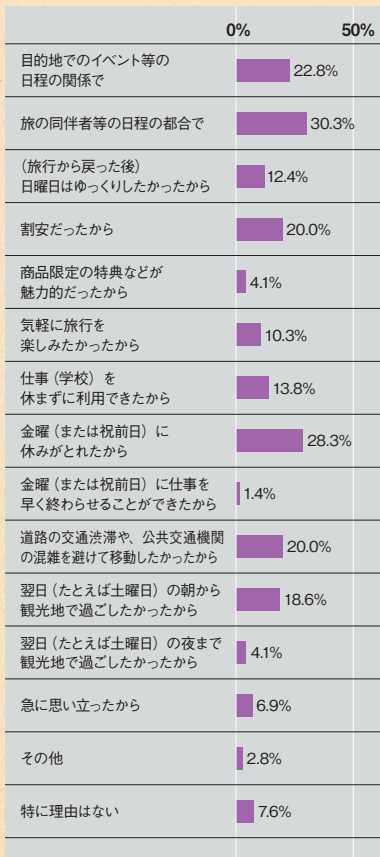
平日の旅行需要といえば、現状ではシニア層に支えられている部分が大いだが、よりいつそうの需要を喚起していくためには、新たな層へのアプローチが欠かせない。そこで今回は、週末に旅行需要が集中しがちなオフィスワーカーをメインターゲットと考え、まずは休日の状況、平日泊旅行に関する意識等に関する調

図5 平日に旅行をしなかった主な理由（2つまで） n=552



出典：平日・閑散期旅行実態調査（平成23年3月）

図6 金曜（または祝前日）泊にした理由（3つまで） n=482

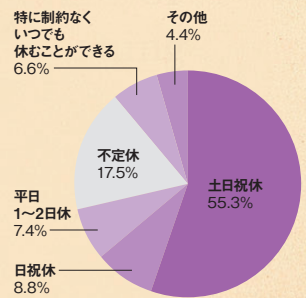


出典：平日・閑散期旅行実態調査（平成23年3月）

査を実施した（「平日・閑散期旅行実態調査」）。

日常における休日を見てみると、平日連続して休める人は全体の半分強（図4）。2日続いた休みを取れない人も一定数を占めていて、まる2日を使った一般的な1泊旅行ができない層も無視できないことが分かる。平日に旅行をしなかった人にその理由を尋ねた結果は、「不明」を除く上位2つが「学校・仕事を休まなければならぬが、旅行のためにわ

図4 日常における休日の状況について n=1034



出典：平日・閑散期旅行実態調査（平成23年3月）

ざわざ休暇を取得するつもりはないから」「学校・仕事が休めれば行きたいが、実際には休暇を取得しづらいから」に（図5）。わざわざ休暇を取って平日に旅行をしてもらうのはハードルが高そうだ。一方で金曜（または祝前日）泊にした理由については、日程の都合による理由を除くと、割安感や混雑のなさ、翌日の朝から観光地で過ごせることなど、メリットを感じている様子も浮かげた（図6）。

「金曜、仕事場から直行できる」に 特化した宿泊プラン、約2000が誕生

条件はレイトチェックインと 金曜(平日)泊メリットの提示

調査で明らかになったのは、日常の休日以外に休暇を取っての宿泊旅行はハードルが高いという現実と、平日泊旅行のメリットは伝わっていないということ。そこで、この点を踏まえた宿泊プランを造成、販売する

こととした。なお、オフィスワーカーが休暇を取らずに平日泊できるとすれば、翌日が休日となる金曜日。今回はとくに金曜日に主眼をおき、「金曜日、仕事場から直行して観光地に泊まる」過ごし方の啓発を目指す。具体的には、全国の宿泊施設に対し金曜(平日)泊を促進するノウハウを提供し、宿泊プランの造成を依

頼。コンテスト形式でプランを募集し、条件を満たしたプランについては「じゃらんnet」の特集記事として掲載、さらに入賞プランは「ボンパレ(※)」上での販売も行うこととした。プラン造成ノウハウの第一が、金曜泊を可能にするための時間の工夫。都市部で仕事終えてからでも間に合う20時以降のレイトチェックイン可

を応募の条件とし、同時に夕食の扱いなど、時間のずれに伴う不安を解消する提案を盛り込んでもらった。さらに金曜泊ならではのメリットや2日目の過ごし方のイメージの明記も促した(左上の実施概要を参照)。こうして全国で新たに造成されたプランは実に1912件。うち21プランを入賞プランとして選出した。

旅行者の金曜(平日)泊を促進する 宿泊プラン商品の開発コンテスト実施概要

趣旨	とくに都市部のビジネスマンをターゲットに、「金曜日、仕事場から直行して観光地に泊まる」ことを啓蒙し、金曜(平日)泊をプロモーションする。
プランコンテスト参加条件	①期間中の平日(月～金)の部屋在庫提供 ②レイトチェックイン20時以降も可能 ③プラン詳細にレイトチェックイン時間について明記(必須) ④金曜夜の都市部からのアクセスのしやすさ、土曜日のレイトチェックアウト設定、土曜日朝から観光地で楽しめることなど、金曜泊の滞在メリットをプラン説明文章で伝える ※①～③をクリアしたプランは… 「じゃらんnet」にて「レイトチェックイン特集」として掲載 ※さらに④をクリアしたプランの中から… 入賞プランを選定→「ボンパレ(※)」にて宿泊プランを販売(2名1室利用のチケットを基本として)
結果	応募プラン総数1912プラン。うち入賞21プラン
ボンパレ(※)販売結果	入賞21プランはすべて販売成立。うち20プランが完売

※ボンパレはリクルートのフラッシュマーケティングサービス。短期間に一定以上の購入者が集まった場合のみお得なチケットが購入できる「クーポン共同購入サイト」である

結果

入賞した宿泊プランは ボンパレで完売続出の人気

「ゆったり」「休まず」行ける 平日泊プランの魅力が伝わる

ボンパレでの販売では、入賞プラン21のうち20が完売。最短では2分で完売するプランも出るなど、手ごたえを感じさせる結果となった。

入賞プランに実際に宿泊した人へのアンケート結果では、旅行商品の魅力について「価格感のお得感があるのが魅力」の74%に続き、「旅行の翌日が休みであるなど、なんとなく

ゆったりできるのが魅力」が50%、「仕事(学校)を休まずに利用できるのが魅力」が26%、「時間の使い方として新鮮で魅力」が26%となるなど、新しい旅行スタイルを伝える商品造成ができたと考えられる。

次ページからは、これら入賞プランに共通する金曜(平日)泊プランのポイントを紹介する。どんな要素があれば金曜(平日)に泊まりたいと思ってもらえるのか、そのエッセンスを参考にしていきたい。

入賞プランに学ぶ!

金曜(平日)に泊まりたくなるアイデア7

コンテストの入賞プランを分析すると、ヒットのカギが見えてくる。
その中から、今すぐ真似してみたい7つのアイデアをピックアップしてみた

同じ1泊2食でも、2日目に2食付いています

神奈川県湯河原市
ふきや旅館



12人宿泊
1時間29分で
完売!

- IN最終到着23時までOK。OUT翌日21時までの最大30時間ロングステイ
- 月曜～木曜の平日泊に限定することで客室の有効活用を実現
- そうじが終わった大浴場の一番風呂を1時間貸切利用(12時～14時)
- 2日目の夕食付き

香川県琴平町
琴平花壇



40人宿泊
12時間45分で
完売!

- IN20時。「夕食がついていないプランなので時間を気にせずチェックイン」
- OUTは10時で「翌日はのんびりと名物の石段を登って“こんびらさん”へ参拝」と周辺観光を提案
- 昼食を提案観光先である琴平山の飲食店「レストラン・神椿」とタイアップ

夕食時刻の心配をなくせば
インがゆつくりでも安心

チェックインが遅い宿泊客にとって気になるのは夕食のこと。これら2つのプランは、どちらも到着日の夕食を省くことでその不安を解消し、かわりに翌日に2食を用意したものだ。「琴平花壇」では、到着日の夕食のかわりに翌日のランチをセット。チェックアウト後のランチまで

プラン料金に含むことで、宿泊以外の滞在スタイルも含めた過ごし方提案となっているのが親切だ。「ふきや旅館」のプランでは、2泊に近い滞在時間の長さを活かし、本来到着日に提供する夕食をそのまま2日目にシフト。2日目の昼食は付かないかわりに近隣の食事処を紹介する旨説明を加えるなど、こちらも過ごし方イメージを明確にして安心感につなげている。

貸切風呂は翌朝。タイムシフトならではの贅沢感

岩手県花巻市
鉛温泉
藤三旅館



40人宿泊
32分で
完売!

- IN22時。宮城県仙台からでも高速で約90分とアクセス明記
- 20時以降INの場合夕食を翌日の昼食に振替可能
- 夕食を昼食に振り替えた場合OUT13時まで
- 10時～12時までの各50分間「貸切風呂」無料

神奈川県湯河原市
ふきや旅館



12人宿泊
1時間29分で
完売!

- IN最終到着23時までOK。OUT翌日21時までの最大30時間ロングステイ
- 月曜～木曜の平日泊に限定することで客室の有効活用を実現
- そうじが終わった大浴場の一番風呂を1時間貸切利用(12時～14時)
- 2日目の夕食付き

変則的な貸切利用時間を
メリットとして見せる!

時間を区切って貸切風呂を提供している宿では、チェックイン時刻が遅いとその時間帯を過ぎてしまい、貸切風呂を利用できなくなってしまうことも。そのデメリットをカバーするため、レイトチェックインの宿泊客向けに、貸切風呂の利用時間を2日目にシフトしたのがこれらの

プランだ。実はこの方法には、通常の宿泊客がチェックアウトした後の時間に貸切風呂利用を分散できるというメリットも。「ふきや旅館」では、変則的な貸切風呂の提供時間を「そうじが終わった大浴場の一番風呂」と表現することで魅力をプラス。「鉛温泉 藤三旅館」の、貸切風呂を楽しんだ後で昼食→チェックアウトという明確な過ごし方提案も分かりやすい。

入賞プランに学ぶ！ 金曜(平日)に泊まりたくなるアイデア7

夕食で一工夫。深夜の運用の難しさを解消

岩手県雫石町 ホテル 森の風鶯宿



40人宿泊
43分で
完売！

- 平日は2名以上で料金一律
- 盛岡駅から40分の無料シャトルのアクセス
- 囲炉裏で炭火焼の夕食が最終21時～スタート可能
- 最終IN20時まで、OUT11時まで

岩手県花巻市 鉛温泉 藤三旅館



40人宿泊
32分で
完売！

- IN22時。宮城県仙台からでも高速で約90分とアクセス明記
- 20時以降INの場合夕食を翌日の昼食に振替可能
- 夕食を昼食に振り替えた場合OUT13時まで
- 10時～12時までの各50分間「貸切風呂」無料

**負担の軽減とともに
満足度を保つ工夫も重要**

レイトチェックイン客を迎える際、宿側の負担が大きいのが夕食の提供。通常通りに提供しようとするれば、調理スタッフらの勤務体系にも大きな影響が出る。「ホテル森の風鶯宿」では、部屋出し、会場食など複数の食事スタイルの中から、本プラン向けには囲炉裏での炭火焼を用

意。旅情あふれるスタイルながら、利用者が自ら焼いて食べるため調理スタッフの負担は軽く、結果遅い時間まで対応も可能になった。「鉛温泉 藤三旅館」では、時間によって部屋食→会場食への切り替えながら、夕食→昼食への振り替え（内容は同メニュー）も提案。同時に夜食ルームサービスの情報を提供するなどして、満足度を落とさずうまく負担を軽減している。

周辺施設と提携して魅力創出&負担軽減

香川県琴平町 琴平花壇



40人宿泊
12時間45分で
完売！

- IN20時。「夕食がついていないプランなので時間を気にせずチェックイン」
- OUTは10時で「翌日はのんびりと名物の石段を登って「こんびらさん」へ参拝」と周辺観光を提案
- 昼食を提案観光先である琴平山の飲食店「レストラン・神椿」とタイアップ

翌日のお昼にすてきな食事があるのも魅力的です。(プラン利用者・40代/男性)

佐賀県嬉野市 茶心の宿 和楽園



20人宿泊
6分で
完売！

- 「街歩きプラン」として地元の老舗やきとり屋「戦国」or温泉街の中心に位置する「寿し市」での夕食をセット。22時からの食事も可能
- IN20時～22時、OUT通常10時を12時に
- 翌日の食事は、朝食か昼食を選択可能

宿泊先で夕食をいただく外でいただいたのは初めての経験だったが、価格的な面を考えるといいのではないかと思います。(プラン利用者・40代/女性)

**魅力的な飲食店と提携し
泊食分離を実現**

変則的な食事提供の負担を軽減するためには、周囲の飲食施設と提携する方法も。魅力的な提携先を選べば、宿泊プランそのものの付加価値にもなる。食事代もプラン料金に組み込んでおけば、利用者は通常の1泊2食付きプラン感覚で使えて安心だ。左の2プランはどちらも、

そのような発想で作られたプラン。「茶心の宿 和楽園」は、嬉野温泉街で人気の寿司店または焼き鳥店での夕食をセット。地元の人気店であることを明記して利用者にとっての魅力もアピールした。「琴平花壇」では提携先での食事はチェックアウト後、1泊朝食プランの感覚で運用できると同時に、旅館とは趣の異なる洋食ランチを提供することでさらなる魅力が加わった。

実は〇時でも間に合う!? 平日の好アクセスを訴求

新潟県湯沢町
ホテル エンゼル
グランディア越後中里



60人宿泊
5時間31分で
完売!

- 金曜夜のうちに雪国に移動するメリットを明記。「東京から新幹線で約90分、平日夜は渋滞がないので車で約2時間!お仕事が終わってからの移動で夜のうちに『雪国』へ!」
- 深夜のチェックINOK。「24時間フロントはあいております」
- 翌朝は、「のんびりレイトチェックアウト」[朝の空いている時間からスキー・スノーボード]の2種類の過ごし方提案

香川県小豆島町
国民宿舎
小豆島



38人宿泊
20時間55分で
完売!

- 小豆島までの交通アクセスについて各最終便を明記。【お車でお越しの場合】姫路港19:30発~福田港21:10着→お車で宿舎まで約40分、高松港20:30発~草壁港21:30着→お車で宿舎まで約10分etc.
- 「8時30分オープンの近隣農園で朝から新鮮な『イチゴ狩り』」を提案

「意外と近い」と感じれば「仕事帰りの旅が身近に」
仕事帰りに直行してもらうには、ある程度のアクセスのよさは必須。しかし、利用者側は、実際より「遠い」と思い込んでいる場合も多い。その誤解を解消するために、実際に何時の電車なら間に合うのか、といった具体的な数字を盛り込んだのが「国民宿舎小豆島」。姫路港から

の終発時刻を明記することで、島々遠いというイメージを払拭し、本州側からも容易にアクセスできると訴えたのがポイントだ。「ホテル エンゼルグランディア越後中里」は、鉄道の移動時間に加えて、平日夜の車移動のメリットも明記。渋滞がなくストレスなく移動できることを強調して、金曜(平日)泊へのモチベーションをよりいっそう高めることにも成功している。

飲み会系~夜食で夜ふかし応援、しっかり2食付き~

京都府京丹後市
夕日浪漫
一望館



20人宿泊
7分で
完売!

- IN24時までOK。OUT翌日14時の最大18時間ステイ
- 「かにおにぎり」の夜食付き
- 布団は事前に敷いてある。「いつでもお休みいただけます」
- メインとなる食事の「かにフルコース」は、翌日の昼食に

金曜の夜からの宿泊で昼食をとりゆっくりできたのがよかった。新鮮味があった。(プラン利用者・女性/40代)
休みを取らずにお得な料金で食事、宿泊が楽しめる点が印象的だった。(プラン利用者・女性/30代)

神奈川県横浜市
横浜テクノタワー
ホテルファミール



60人宿泊
18分で
完売!

- IN20時以降、OUT13時まで
- シェフ特製パーティーボックス(2段)を1部屋に1セット用意
- フランス産スパークリングワインも1室1本フルボトルを用意
- 翌日朝からの観光提案。「八景島へ朝一番に行って貸切気分を味わう!」「ベイサイドマリナーのアウトレットで一番に来店してお買い物」etc.

「夜ふかし需要に着目し」「都会で飲むより旅先へ!」
金曜の仕事帰りのレジャーと考えると、飲み会やカラオケも旅行のライバルだが、そんな「飲み会」ニーズをうまく取り込んだのが「横浜テクノタワーホテルファミール」のプラン。上質なおつまみボックス、スパークリングワインを用意することで、都内でするはずだった夜遊びを

「横浜のホテルでパーティー」に置き換えることに成功した。「夕日浪漫 一望館」では、自慢のかにフルコースは翌日の昼食に回し、到着日の夜はかにおにぎりの夜食を提供。夜食一つにもしっかりと当地感を盛り込むことで、夜も遅く「ガッツリ食べる」という気分ではないものの、夜ふかしを楽しんで翌朝ゆっくり寝坊したい、という人にも魅力的な内容となった。

入賞プランに学ぶ! 金曜(平日)に泊まりたくなるアイデア7

まだある! 金曜泊プランのツボ

過ごし方のスケジュール は具体的に!

土日を使った1泊2日旅行に慣れている人にとって、金曜(平日)泊の旅をためらう原因の一つは「過ごし方をイメージしにくい」こと。これをしっかり伝えるだけでも旅行者にとってはかなりハードルが下がる。「関空温泉ホテルガーデンパレス」では、大阪市内での待ち合わせ時間から始まって、ドライブ所要時間～到着時刻～夕食時間～就寝時刻～起床時刻～貸切温泉タイム…と事細かにモデルスケジュールを明記。過ごし方イメージを明確にすることが、プランを検討している人に安心感を与えているようだ。

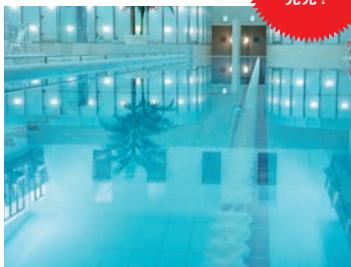
デメリットは事前に告知。 メリット転換 できればさらに◎

深夜に近いチェックインともなると、宿側も対応できないことが出てくるもの。その場合は「できないこと」についてあらかじめはっきり伝えておくことがトラブル防止につながる。入賞プランの中には、「到着時の送迎はできない」「21時以降はフロントスタッフではなく夜警員が対応」などとデメリット情報がしっかり明記されているものが多い。さらに、「夕食はつかないが、その分チェックイン時刻が遅くなくても問題ない」など、マイナスをプラスに変える表現ができるとうより理想的といえるだろう。

朝活系～朝の魅力push!の 過ごし方提案～

東京都港区
ザ・プリンス
パークタワー東京

62人宿泊
2分で
完売!



- IN20時以降、OUT12時
- 館内利用券4000円付き+ホテル内でできること提案。24時間ルームサービスで「お部屋でおこもり女子会コース」、6時～のフィットネス利用で「平日朝活!スパ&フィットネスで自分磨きコース」etc.

「朝一番から〇〇できる」ということは、都心、地方のどちらにも言える宿泊のメリット。「ザ・プリンスパークタワー東京」のプランでは、充実したスパ&フィットネスで朝からリフレッシュできる点を強調して「朝活」派の心をつかんだ。「軽

宿泊⇨朝から動けることは
日帰り旅にはない魅力

井沢 アルベルゴヴェローナ」と「国民宿舎小豆島」は、宿泊することで朝から観光地にいられるメリットを訴求。「すいている時間帯のアウトレットで買い物」「他の人がつむ前の朝一番のイチゴをゲット」など、週末の朝出発では間に合わない、泊まった人ならではの過ごし方を提案することで、金曜(平日)泊の魅力伝えるのに成功した。

香川県小豆島町
国民宿舎
小豆島

38人宿泊
20時間55分で
完売!



- 小豆島までの交通アクセスについて各最終便を明記。【お車でお越しの場合】姫路港19:30発～福田港21:10着→お車で宿舎まで約40分、高松港20:30発～草壁港21:30着→お車で宿舎まで約10分etc.
- [8時30分オープン]の近隣農園で朝から新鮮な「イチゴ狩り」を提案

長野県軽井沢町
軽井沢 アルベルゴ
ヴェローナ

60人宿泊
7時間10分で
完売!



- IN17時～24時までOK
- 「東京発20:40分の新幹線でも間に合う」とアクセス時間を明記
- 「翌日は、早起しなくても、午前中からゆっくり軽井沢・プリンスショッピングプラザでお買い物も三昧」と過ごし方提案。送迎もあり



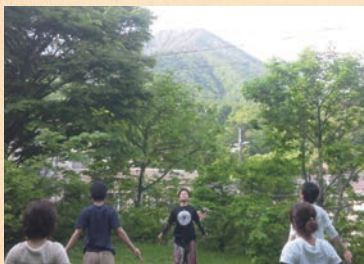
単に「見晴らしがいい」「爽やか」というだけではなく、「雲海が見られる」という分かりやすさが成功のポイントに。今や「雲海テラス」が目当ての個人客も多い



もともと夏季も運行していた Gondola (往復1500円)の活用法としてもうまくはまった格好。コストを増やさず収益アップにつながった

応用編 朝は地域の「自然」が 生きる時間帯

旅先の朝の爽やかさや、早起きして見るその土地ならではの自然現象は究極の非日常として力強い素材になる。まずは「日の出」や「朝もや」など、地元の自然現象を見直してみてもいい。今年、「ご来光ツアー」を始めた乗鞍高原のように、個人では行きにくいスポットに送迎バスを出すなどの取り組みも増えている



大山=パワースポットのイメージも都会にはない付加価値。近隣のヨガ講師や森林ガイド資格を持つスタッフなど、身近な協力者を見つけてすることで負担をかけずにスタートできた



冬はスキー客でにぎわうが、夏は周遊旅行の一拠点としての利用が多く、施設内への滞在時間が短い。そんな課題を解決したのが「雲海テラス」だ。朝5時〜8時30分という早朝に Gondola で山頂に上り、雲海を

眺めてもらうもので、昨年は、6月〜10月上旬の期間中に4万5000人もの利用客を集めた。当初は朝食ボックスを用意して山頂で食べてもらう「山のテラス」として始まったが成果は今ひとつ。ところが、地域特有の自然現象である「雲海」という、イメージしやすい要素を加えたことが転換点に。初年度の客足の伸

びは緩やかだったが、続けるうちにメディアの取材も増え、そのことでさらに客が集まる好循環が生まれて、今やグリーンシーズンの目玉としてリピーター獲得やリゾート内の滞在時間増に貢献している。注目度の高まりはスタッフの意欲にも影響。全員が変則的な早朝勤務にも率先して取り組みなど現場の士気も高い。

トマムの朝独特の自然現象で 夏季のファン獲得に成功

北海道 占冠村

MORNING

6:00
8:00

早朝にできる魅力的な体験があればそのために人は泊まる！

アルファリゾート・トマム

+

雲海テラス

時間活用 事例 取材レポート

朝、夜、夕方…すき間時間の活用で
宿泊客に愛される観光地になる！

やることなかった時間帯にアクティビティを設ければ宿泊客の満足度もアップ！
「すき間時間」を強みに変えるポイントを、5つの事例から学んでみよう

鳥取県大山町

ホテル大山しろがね

早朝ヨガ

ヨガ×朝の相乗効果で
都心にはない爽やかさをPR

宿泊者の多くは登山客だが他にもアクティビティの多い大山。その魅力を伝える宿泊プランの第一弾として売り出したのが、早朝ヨガと朝食後の森林散策をセットにしたプランだ。早朝を選んだのは、体を浄化するヨガのイメージと重ね、「ここでやるなら朝の空気の爽やかさを生かすべき」と考えたから。ヨガは若い女性に人気も高く、シニアに偏りがちな登山客とは異なる新たな層の取り込みが期待されている。

山梨県笛吹市

NIGHT

20:00
24:00

宿泊し帰らなくてよいからこそ
楽しめるイベントの提案を

石和温泉組合



ナイトワイナリー

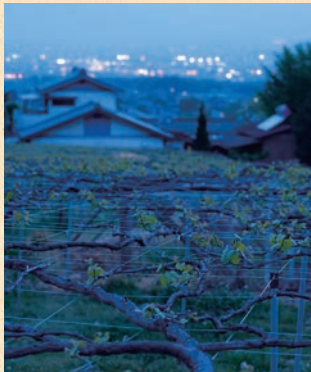
やる事がなかった石和の夜に
ワインでプレミアム感をプラス

首都圏から近いのは強みでもあるが、日帰り客が多く宿泊につなげにくい石和温泉。「地域にやることがないからだ」との危機感から、「宿泊するからこそ楽しめる夜のイベントを」と企画したうちの1つが、春と秋に実施されるナイトワイナリーツアーだ。最大の売りは、普段は入



提携先は、企画メンバーが青年会議所の人脈で発掘した地域外のワイナリー。石和だけでやろうとせず、近隣地域と手を結んだのもポイントだ

れない夜のワイナリーのプレミアム感と、車で帰宅する必要があるため心置きなく試飲ができる点。宣伝費用がかけられず、広報は客室係やフロントが直接宿泊客に案内するのみだが、「最低3年は続ける」との覚悟で地道に続けた結果、昨年は1回に最大40人を集めるほどの人気企画に成長した。実際の運用は、各旅館で申し込みを受け付け、地元のホテルのスタッフがガイドとして立ち会う仕組み。組合加盟の全宿が幹事を回り持つ負担はあるが、春秋各2週間と期間を区切ることで無理のない範囲で取り組んでいる。



ワイナリーから見えるぶどう畑や甲府盆地の夜景も魅力的

応用編
雰囲気よさ、
プレミアム感がポイント

夜のワイナリーのミステリアスな雰囲気は日中には味わえないもの。他にも美術館や水族館など通常夜には入れない場所を開放すれば、わざわざ訪ねるに値するプレミアム感を演出できそうだ。都会からの旅行者には蛍や星空も人気。何も無い地域でも、四万温泉のように小道具にひと工夫して雰囲気を演出してみよう



ツアーを企画したのは30~40代の若手世代。「ツアーの実施で客室係と宿泊客の会話が増えるという嬉しいメリットもありました」

群馬県中之条市

四万温泉協会

ちようちんウォーク

何もない夜の静けさを逆手に
非日常を演出して印象アップ

四万温泉の素朴な温泉街は夜が早く、17時には商店も閉まってしまふ。その静けさを逆手に取り、楽しんでもらおうというのがこのイベント。昨年は7月〜9月に週3回ずつ実施、毎回20〜30名を集めた。真っ暗な温泉街をちようちんを片手に歩くだけだが、夜の暗さとちようちんの幻想的な灯が非日常感を演出。ガイド役の協会員に温泉の話の聞いたり、参加者同士で何気ない話をしながら歩くことが新鮮な印象を残している。



参加人数が少ないと寂しいので、四万全域から参加者を集めて人数を確保。遠方の旅館からは中心街まで送迎を行う。ちようちんという小道具の非日常感も魅力だ

時間マジックで
観光地力をアップする!



女性には温泉街の散策用に色浴衣を貸し出すことで、街に華やいだ雰囲気も生まれた。夕食後も有料でお酒やスイーツを提供。ちょうちんの灯る昔ながらの美しい風景も歩いてもらって初めて伝わる



応用編

エリア全体が協力して回遊できる仕掛けを!

この時間を活用する最大のメリットは、早めのチェックインを促して地域内での滞在時間を延ばせること。エリア内の施設が協力して「回遊したくなる仕掛け」を作れば、宿泊先以外の宿や飲食店、土産物店の売り上げ向上にもつながる。スタンプラリーや湯めぐり、味めぐりなどの企画も考えられるだろう

地域や宿泊施設が提供するものは、単に食事や寝る場所という有形のものだけではなく、旅行者が「地域で過ごすかけがえない時間・心に残る滞在ストーリー」という無形のものであるはずだ。だからこそ、旅行者に魅力的な「地域ならではの時間の過ごし方」を主体的に提案できることは、地域・宿泊施設の価値を向上させるだろう。

(研究員・加藤史子)

EVENING

15:00
17:00

やることのない時間を楽しく変えれば、
地域の魅力が上がる!

奈良県天川町

洞川温泉組合

+

縁側カフェ

全宿が縁側開放で回遊を促進
課題の認知度向上にも手応え

洞川は行者の宿場町として栄えた地。行者が減った今では個人旅行者の獲得が急務だが、旅先としての認知度はまだ低い。周辺の観光地とも距離があるため、いったん宿に入る

と宿泊客が出歩かず、賑わいが生まれないのも課題だった。一方で地域には昔から、訪ねてきた人を誰でも快く縁側でもてなす習慣が。そこで2年前、このもてなしを宿泊プランに組み込んで発売。チェックイン、夕食の時間には、地域内全11宿が縁側にお茶とレトロおもちゃを用意して立ち寄り客をもてなすことで宿泊客のエリア内回遊を促した。自宿に

宿泊プラン予約者がいなくても対応が必要なくみに対し、1軒に予約が入るとFAXで全宿に共有するなど、地域が一丸となって取り組むことができたのは、「地域全体の認知度アップ」という共通の課題があったため。2年目となる昨年はオフ期の6月で宿泊人数が前年比2倍になるという成果を上げている。

とーりまかしの
考察

旅行の大きな障壁と言われる「お金」と「休暇(時間)」。旅行者の貴重な時間を有効活用できるような宿泊プランがあれば、「最低2日の連続休日がない」と宿泊旅行はできない」という固定観点をやぶって「平日1日+休日1日」を使い、充実した宿泊旅行を提案できる。また、「15時にチェックインして、一息ついたあとの夕食までの空き時間」「いつもの生活よりは早い夕食を終え、寝るのにもまだ早い」という夜の時間「朝チェックアウトして、何か心残りな気持ちを抱えながら駅へ直行して帰宅してしまう」など、観光地と旅行者の間には、多くのミスマッチな時間が横たわっている。